

全体についての防火管理に係る消防計画作成チェック表

作成する内容	法令 根拠等	該当 確認	作成 チェック
第1 目的及び適用範囲			
1 目的	◎		
2 適用範囲	◎		
3 各管理権原者の権原の範囲	◎		
4 全体についての防火管理業務の一部委託	◎	▲	
第2 各管理権原者の責務			
1 各管理権原者の責務	○		
2 統括防火管理者の選任及び届出	◎		
3 全体についての消防計画の作成及び届出	◎		
4 資格管理	○	▲	
第3 各防火管理者の責務			
各防火管理者の責務	○		
第4 統括防火管理者の責務			
統括防火管理者の責務	○		
第5 火災予防のための点検・検査			
1 自主的に行う点検・検査	◎		
2 防火対象物の法定点検	◎	▲	
3 消防用設備等の法定点検	◎		
4 点検後の対応	◎		
第6 建物全体で守るべき事項			
1 避難施設等の維持管理及びその案内	◎		
2 放火防止対策	○		
3 工事中の安全対策	○		
第7 防火・防災教育			
1 防火・防災教育の実施	○		
2 防火・防災教育の内容	○		
第8 自衛消防活動			
1 自衛消防活動体制	◎		
2 営業時間外等（夜間・休日等）の自衛消防活動体制	◎	▲	
3 消防隊に対する情報提供及び消防隊の誘導	◎		
4 火災時の自衛消防活動	◎		
5 震災時の自衛消防活動	◎		

第9 訓練				
	1 自衛消防訓練の実施時期	◎		
	2 訓練実施結果の保存	◎		
第10 震災対策				
	1 震災に備えての事前計画	○		
	2 震災時の活動計画	○		
	3 施設再開までの復旧計画	○		
第11 その他の災害対策				
	1 大規模テロ等に伴う災害に係る自衛消防対策	○		
	2 大雨・強風等に係る自衛消防対策	○		
	3 受傷事故等の自衛消防対策	○		
	4 ガス漏えい時の自衛消防対策	○		
	5 停電時の自衛消防対策	○		
第12 雑則				
別記	防火対象物の管理権原者の権原の範囲	◎		
別表1	全体についての防火管理業務の一部委託状況表	◎	▲	
別表2	全体についての防火管理業務一部委託契約書等の内容 チェック表	◎	▲	
別表3	自主検査チェック表「建物」	○		
別表4	自主点検チェック表「消防用設備等」	○		
別表5	一斉帰宅抑制における従業員等のための備蓄	○		
別表6	施設の安全点検のためのチェックリスト	○		
別添え1	火災時の自衛消防活動要領	◎		
別添え2	震災時の自衛消防活動要領	◎		
その他				

(備考)

- 1 自衛消防組織、防災センター要員、防火管理技能者、自衛消防活動中核要員のいずれかを防火対象物に置かなければいけない場合は、「全体についての防火・防災管理に係る消防計画」を使用して作成する。
- 2 ◎印は、消防法第8条の2第1項に定める防火対象物の全体についての消防計画を作成する上で、必要な項目である。
- 3 ○印は、全体についての消防計画を作成する上で定めることが望ましい項目である。
- 4 ▲印は、該当する場合に定める項目である。
- 5 作成チェック欄は、統括防火管理者が、全体についての消防計画を作成するに当たり、必要項目を確認し、作成したものについて「✓」印でチェックする。
- 6 防火対象物の実態にあわせて作成した別記・別表・別図については、別表等の空欄に記入する。

第1 目的及び適用範囲等

1 目的

この計画は、_____の全体についての防火管理上必要な業務に係る事項を定め、火災を予防するとともに、火災、地震その他の災害等による人命の安全及び被害の軽減を図ることを目的とする。

2 適用範囲

この全体についての消防計画を適用する者の範囲は、_____に勤務し、出入りする全ての者とする。

3 各管理権原者の権原の範囲

防火対象物の各管理権原者の当該権原の範囲については、別記のとおりとする。

▲ 4 全体についての防火管理業務の一部委託

(1) 計画の適用

この計画は、委託を受けて全体についての防火管理業務に従事する者（以下「受託者」という。）についても適用する。

(2) 全体についての防火管理業務の一部委託状況

別表1「全体についての防火管理業務の一部委託状況表」のとおり

(3) 受託者との契約内容のチェック

統括防火管理者は、防火対象物の全体についての防火管理業務の適正化を図るため、受託者が実施する防火管理業務について、別表2「全体についての防火管理業務一部委託契約書等の内容チェック表」に基づき、委託契約等の内容を確認する。

(4) 委託者からの指揮命令

受託者は、この計画に定めるところにより、当該防火対象物の各管理権原者及び統括防火管理者、防火対象物自衛消防隊長の指示、指揮命令の下に適正に業務を実施する。

(5) 委託者への報告

受託者は、受託した全体についての防火管理業務について、定期的に統括防火管理者に報告する。

第2 各管理権原者の責務

1 各管理権原者の責務

- (1) 各管理権原者は、それぞれの消防計画（以下「事業所の消防計画」という。）に基づき、当該防火管理者に防火管理上必要な業務を適正に行わせる。
- (2) 各管理権原者は、統括防火管理者が防火対象物の全体についての防火管理上必要な業務を適切に行うことができるように相互に協力する。

2 統括防火管理者の選任及び届出

- (1) 全ての管理権原者は、統括防火管理者を協議して定め、防火対象物の全体についての防火管理上必要な業務を行わせる。事業所の入退去等により各管理権原者が変更になったときも同様とする。
- (2) 前項の協議は、_____によって行う。
- (3) 管理権原者は、統括防火管理者を定めたときは、所轄消防署長に届け出る。

↓主要な者等方式で届出する場合

- ▲(4) 前項の届出は、防火対象物における各管理権原者のうちの主要な者として_____を指定し、その代表者名をもって行う。

3 全体についての消防計画の作成及び届出

- (1) 各管理権原者は、統括防火管理者に、全体についての消防計画の作成及び所轄消防署長への届出をさせる。

↓主要な者等方式で届出する場合

- ▲(2) 前(1)の届出は、前2、(4)のとおり各管理権原者のうちの主要な者を指定し、その代表者名をもって行う。
- (3) 各事業所の消防計画は、全体についての消防計画に適合させる。

4 資格管理

- (1) 各管理権原者及び統括防火管理者は、当建物に義務付けられた法定資格者の種別と従業員の資格保有状況を把握し、適正に法定資格者が配置されるように維持管理する。

↓防火管理者の再講習が必要な場合

- ▲(2) 各管理権原者は、防火管理者の資格管理を適正に行い、甲種防火管理再講習の受講を徹底する。

第3 各防火管理者の責務

各事業所の防火管理者は、統括防火管理者の指示を遵守するとともに、次に掲げる防火管理上必要な事項について統括防火管理者に報告又は承認を受ける。

報告項目	内容
事業所の防火管理関係	防火管理者に選任又は解任されたとき
	事業所の消防計画を作成又は変更するとき
	事業所の消防計画に定める消防機関への報告及び届出を行うとき
	事業所の消防計画に定めた訓練を実施するとき
	事業所の収容人員や用途を変更するとき
	防火管理業務の一部を委託又は防火管理者の業務を委託するとき
点検・検査の結果関係	防火対象物の法定点検の実施及び結果について
	消防用設備等・特殊消防用設備等（以下「消防用設備等」という。）の法定点検の実施及び結果について
	建築物等の定期検査の実施及び結果について
	消防機関が行う検査等の実施及び結果について
	防火・防災上の建物構造の不備や消防用設備等の不備欠陥を確認したとき及びそれらを改修したとき
火気・危険物関係	臨時に火気を使用するとき
	大量の可燃物を搬入するとき
	危険物又は引火性物品を貯蔵・取り扱うとき
使用状況の変更関係	内装改修又は改築等の工事を行うとき
	用途（一時的含む。）を変更するとき
	客席又は避難通路の変更を行うとき
	火気設備・火気器具（以下「火気設備・器具」という。）又は電気設備の新設、移設、改修等を行うとき
	催物を開催するとき
その他	統括防火管理者から指示された事項を履行したとき
	その他火災予防上必要な事項

第4 統括防火管理者の責務

統括防火管理者は次に掲げる業務を行う。

業務項目	内容
監督・指示業務	全体についての防火管理業務を行う上での、各防火管理者へ必要な指示
訓練業務	防火対象物等全体で行う消火、通報、避難訓練の定期的な実施
避難施設の維持管理業務	防火対象物等の廊下、階段、避難口その他の避難上必要な施設の管理
消防隊の支援	消防隊に対する情報提供及び消防隊の誘導
計画の作成・届出	全体についての防火管理に係る消防計画の作成、消防機関への届出
その他	その他、防火対象物等の全体についての防火管理上必要な業務

第5 火災予防のための点検・検査

1 自主的に行う点検・検査

- (1) 統括防火管理者は、別表3『自主検査チェック表「建物」』及び別表4『自主点検チェック表「消防用設備等」』に基づき、自主点検を実施する。
- (2) 自主点検の実施時期は、_____月頃と_____月頃_____に行う。

↓消防用設備等に特例が適用されている場合

- ▲(3) 統括防火管理者は、特例適用条件の適否についてもあわせて実施するとともに事業所の防火管理者に対しても同様に実施するように指示する。

↓防火対象物点検報告が必要な場合

▲ 2 防火対象物の法定点検

- (1) 防火対象物等の法定点検は、_____の責任により行う。
- (2) 各管理権原者は、点検に必要な場所への立入りを認めるなど、点検が適切に実施できるよう相互に協力する。
- (3) 点検を実施する場合は、事業所の防火管理者等が立ち会う。

3 消防用設備等の法定点検

- (1) 消防用設備等の法定点検は、_____の責任により行う。
- (2) 各管理権原者は、点検に必要な場所への立入りを認めるなど、点検が適切に実施できるよう協力する。
- (3) 点検を実施する場合は、事業所の防火管理者等が立ち会う。

4 点検後の対応

(1) 点検結果の記録

統括防火管理者は、防火対象物及び消防用設備等の法定点検の結果を取りまとめ、各管理権原者に報告するとともに、その取りまとめた記録を防火管理維持台帳に3年間保管する。

(2) 不備欠陥箇所の改修

管理権原者及び統括防火管理者は、点検・検査により明らかになった不備欠陥について、速やかに改修するための必要な措置を図る。

第6 建物全体で守るべき事項

1 避難施設等の維持管理及びその案内

統括防火管理者は、次により、廊下、階段、避難口、安全区画、防煙区画等の避難施設を適正に維持管理する。

(1) 廊下、階段、避難口、通路等

- ① 避難の障害となる設備又は物品を設けない。
- ② 床面は避難に際し、つまずき、すべり等を生じないように維持する。
- ③ 避難口等に設ける戸は、容易に解錠し開放できるものとし、開放した場合は廊下、階段等の幅員を有効に保持する。

(2) 安全区画、防煙区画等

- ① 防火設備は、常時閉鎖又は作動できるようにその機能を有効に保持し、閉鎖の障害となる設備又は物品を設けない。なお、防火設備の開閉位置と他の部分とを色別しておく。
- ② 防火区画の防火設備に近接して延焼の媒介となる可燃物を置かない。

(3) 避難経路の案内

統括防火管理者及び各防火管理者は、従業員及びその他防火管理業務に従事する者、建物利用者に避難口及び避難階段の位置を把握させるために、必要に応じて避難経路図等を掲出する。

2 放火防止対策

統括防火管理者は、放火防止対策について事業所の消防計画に定めさせるほか、次の対策を推進する。

- (1) 建物内外の整理整頓
- (2) 物置、空室、雑品倉庫等の施錠管理の徹底
- (3) 挙動不審者への声掛け
- (4) 死角となりやすい廊下、階段室、トイレ等の可燃物の除去
- (5) その他 _____

3 工事中の安全対策

- (1) 統括防火管理者は、複数の事業所にわたる増築、模様替え等の工事が行われる場合、当該工事を行う事業所の防火管理者等と協力して「工事中の消防計画」を作成し、所轄消防署長へ届け出る。
- (2) 統括防火管理者は、各事業所が行う用途変更・間仕切変更・内装等の変更工事等又は催物の開催など不定期に行われる工事等に関し、必要に応じて、工事・催物等の計画内容等の確認や現場確認を行い、法令適合の確認や火気管理等の防火上の確認を行う。

第7 防火・防災教育

1 防火・防災教育の実施

- (1) 統括防火管理者は、防火管理業務に従事する者に対して、防火・防災管理業務に必要な知識、技術を高めるための教育を行う。
- (2) 統括防火管理者が実施する教育は、防火対象物の全体についての訓練時にあわせて実施する。

2 防火・防災教育の内容

統括防火管理者が行う防火管理業務に従事する者に対する防火・防災教育の内容は、次による。

- (1) 全体についての防火管理に係る消防計画の内容の周知
- (2) 各事業所の権原の範囲とその責務等
- (3) 自衛消防隊の編成とその任務
- (4) 消防用設備等、防災設備等の機能及び取扱要領
- (5) 廊下、階段、避難口、安全区画、防煙区画等の避難施設の維持管理
- (6) 地震及びその他の災害が発生した場合の自衛消防活動に関する事項
- (7) その他火災予防上及び自衛消防活動上必要な事項

第8 自衛消防活動

1 自衛消防活動体制

- (1) 火災が発生した事業所の消防計画に定める自衛消防隊の活動を基本とする。
- (2) 火災発生事業所以外の事業所にあっても、事業所の消防計画に定める自衛消防隊の組織を活用して、必要に応じて、通報、消火、避難誘導等の活動を行う。
- (3) 火災、地震その他の災害等による人的又は物的な被害を最小限にとどめるため、各事業所は、統括防火管理者及び各防火管理者を中心として相互に連絡、協力し、建物全体として火災、地震その他の災害に対応する。

↓営業時間内と自衛消防隊の組織編成及び活動要領が異なる場合

▲ 2 営業時間外等（夜間・休日等）の自衛消防活動体制

(1) 営業時間外等に在館者がいる場合

営業時間外等に発生した災害等に対しては、在館中の事業所の従業員及びその他防火管理業務に従事する者が協力する。

① 通報連絡

火災が発生した場合は、発見者は_____するとともに、建物内にいる者に火災の発生を知らせ、さらに緊急連絡一覧表等により防火管理者等関係者に速やかに連絡する。

② 初期消火・安全防護

消火器や屋内消火栓などの消防用設備等を有効に活用し適切な初期消火を行うとともに防火戸などの閉鎖を行う。

③ 避難誘導

工事、点検等のため入館者がある場合は、放送設備や拡声器などを使用して火災を知らせ、避難方向等を指示する。

④ 消防隊への情報提供等

消防隊に対して、火災発見の状況、延焼状況等の情報、資料等を速やかに提供するとともに、出火場所への誘導を行う。

⑤ その他

事業所の防火管理者は、火災、地震その他の災害等により被害が生じた場合は、統括防火管理者に報告する。

(2) 営業時間外等に無人となる場合

営業時間外等において無人となる場合は、次によるものとし、火災発生等の連絡を受けた防火管理者等は、直ちに現場に駆けつける。

▲① 事業所火災直接通報（承認番号_____）

▲② 代理通報（通報事業者名_____）

▲③ その他 _____

3 消防隊に対する情報提供及び消防隊の誘導

(1) 情報提供

統括防火管理者は、火災、地震その他の災害等が発生した際に消防隊に対して情報提供するため、次に掲げる図書等を_____に配置する。

① 防火対象物の概要表、案内図、平面図、詳細図、立面図、断面図、展開図、室内仕上げ表及び建具表等

② 火気設備・器具等の位置、構造等の状況を示した図

③ 緊急連絡先一覧

④ 防火管理維持台帳

(2) 消防隊の誘導

火災、地震その他の災害等が発生した際は、防火対象物の_____に消防隊の誘導のための配置員を置く。

4 火災時の自衛消防活動

別添え 1 の火災時の自衛消防活動要領により行動する。

5 震災時の自衛消防活動要領

別添え 2 の震災時の自衛消防活動要領により行動する。

第 9 訓練

1 自衛消防訓練の実施時期

統括防火管理者は、防火対象物の全体についての消火、通報及び避難の訓練等を_____実施する。

2 訓練の実施結果の保存

- (1) 自衛消防訓練終了後、統括防火管理者は、訓練の実施結果を検証し、検討結果を各管理権原者に報告するとともに以後の訓練に反映させる。
- (2) 検討結果から、必要によりこの計画の見直しを行う。
- (3) 「自衛消防訓練実施結果記録書」を防火管理維持台帳に綴じて、訓練を行った日から 3 年間保存する。

第10 震災対策

1 震災に備えての事前計画

対 策	内 容								
建築物等の点検及び補強	<p>統括防火管理者は、建築物及びこれに付随する工作物（看板、装飾塔等）の倒壊、転倒、落下の防止措置状況を把握し、必要に応じて補強する。</p>								
安全避難の確保及び点検	<p>統括防火管理者は、事業所が実施する避難施設及び防火設備の点検状況を確認し、不備等がある場合は、事業所の防火管理者に対して必要な措置を講じるよう指示する。</p>								
資器材及び非常用物品の準備及び確保	<p>① 各管理権原者は、地震その他の災害に備え、事業所の消防計画に基づき、救助救護等の資器材及び非常用物品を準備し、維持管理する。</p> <p>② 防火対象物の全体についての資器材及び非常用物品は、_____に次のものを配置する。</p> <table border="1" data-bbox="552 887 1374 1229"> <thead> <tr> <th data-bbox="552 887 820 936">種 別</th> <th data-bbox="820 887 1374 936">品 名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="552 936 820 1032">応急手当用品</td> <td data-bbox="820 936 1374 1032"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="552 1032 820 1128">救助作業用資器材</td> <td data-bbox="820 1032 1374 1128"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="552 1128 820 1229">非常用物品</td> <td data-bbox="820 1128 1374 1229"></td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 統括防火管理者は、資器材及び非常用物品の点検、整備を定期的実施する。</p>	種 別	品 名	応急手当用品		救助作業用資器材		非常用物品	
種 別	品 名								
応急手当用品									
救助作業用資器材									
非常用物品									
<p>↓ 応援協定等が締結されている場合</p> <p>▲ 周辺地域の事業所、住民等との連携及び協力体制の確立</p>	<p>統括防火管理者は、周辺地域の事業所又は住民等との災害時の連携について、各管理権原者と協議し、協力体制の構築を図るよう努める。</p>								

警戒宣言発令時の対応措置	<p>統括防火管理者は、警戒宣言が発せられた場合には、各防火管理者に、事業所の消防計画に定める警戒宣言が発せられた場合の対応を行わせる。</p> <p>また、地震に関する情報に関して、館内放送等により在館者等へ伝達する。</p>
従業員等の一斉帰宅の抑制	<p>各管理権原者は、統括防火管理者に対して災害時に従業員等が安全に待機できる場所（以下「施設内待機場所」という。）を確保させ、統括防火管理者は、施設内待機場所及び防火対象物の備蓄品の維持管理を図る。</p> <p>なお、エレベーターが停止した場合に備え、備蓄品の保管場所を分散させておく。</p> <p>また、従業員以外の帰宅困難者用に、従業員分の備蓄の10%程度を余分に備蓄する。</p> <p>施設内待機場所： _____</p> <p>備蓄場所・備蓄品・・・別表5のとおり維持管理を行わせる。</p>
災害予防措置	<p>各管理権原者は、統括防火管理者に対して、震災訓練等を実施した結果の確認及び検証並びに震災に備えての事前計画を見直し改善していく取組み（PDCA（計画→実行→検証→改善）サイクル）を行わせる。</p>

2 震災時の活動計画

項目	内容
震災時の任務分担	① 統括防火管理者は、防火対象物全体の被害状況を把握し、防火管理者に周知するとともに、必要な措置を行わせる。 ② 防火管理者は、事務所の被害・活動状況を把握し、自衛消防隊に必要な措置を行わせるとともに、統括防火管理者に報告する。 ③ 被害のない事務所又は活動の終了した事務所の自衛消防隊は、統括防火管理者から活動要請があった場合は、協力して活動を行う。
↓緊急地震速報を活用する場合 ▲緊急地震速報の活用	統括防火管理者は、訓練及び防火・防災教育の機会を捉えて、緊急地震速報の受信方法及び活用方法等について、従業員及びその他防火管理業務に従事する者に周知しておき、効果的に活用する。
↓危険物等がある場合 ▲危険物等の流出及び漏えい時の緊急措置	統括防火管理者は、危険物、毒物、劇物、薬品、高圧ガス等が流出又は漏えいが発生した場合は、自衛消防隊を活用して応急の措置を行う。
初期救助・救護活動	① 防火管理者は、事業所の消防計画に基づく安全措置を講じ、被害状況及び建物、火気設備・器具等の点検結果を統括防火管理者に報告する。 ② 統括防火管理者は、全体の被害状況を把握し、防火管理者に必要な応急措置を行わせる。 ③ 周辺地域で救助や消火が必要な場合は、協力して対応する。
被害状況の把握等	① 統括防火管理者は、地震による建物の倒壊、火災の発生等の被害状況を把握し、防火管理者に周知する。 ② 防火管理者は、周囲の被害状況を掲示板、拡声器等を用いて、従業員等に周知する。
周辺地域の事業所・住民との連携	統括防火管理者は、防火対象物内の安全が確認できた場合は、周辺地域の事業所又は住民の応援に努める。

従業員等の施設内待機等	<p>① 統括防火管理者は、_____を用いて、「むやみに移動を開始しない」ことを在館者等に徹底する。</p> <p>② 統括防火管理者は、災害関連情報等を収集し、施設周辺の被害状況を把握するとともに、施設の安全点検のためのチェックリストの項目に従い確認し、管理権原者に報告する。</p> <p>施設チェック項目・・・別表6のとおり</p> <p>③ 管理権原者は、報告を踏まえ、施設内で待機できるか判断する。</p> <p>④ 統括防火管理者は、鉄道等公共交通機関の運行状況の情報、余震、津波、火災等の危険に関する情報の把握に努め、館内放送等を活用して、在館者等に適宜伝達する。</p> <p>⑤ 備蓄品の配布基準及び方法：_____</p> <hr/> <p>⑥ 管理権原者は、施設及びその周辺の被害状況等から施設の安全性が確保できないと判断した場合は、統括防火管理者の指揮の下、一時滞在施設等へ従業員等を誘導する。</p> <p>⑦ 統括防火管理者は、防火管理者に混乱の収束情報を提供し、時差退社計画に基づく方面別の集団帰宅を促す。</p>
-------------	---

3 施設再開までの復旧計画

項目	内容
ガス、電気、上下水道、通信等途絶時の対策	<p>① 統括防火管理者は、ガス、電気、上下水道、通信等途絶時に、非常用電源や非常用物品等を活用し対応する。</p> <p>② 統括防火管理者は、地震後の二次災害発生を防止するために、火気設備・器具、電気器具等からの火災発生要因の排除又は使用禁止措置を行う。</p>
危険物、ガス、電気等に関する二次災害発生防止措置	<p>① 統括防火管理者は、建物内に立ち入ることが危険と判断した場合は、立入禁止の措置を行い、防火管理者に周知する。</p> <p>② 防火管理者、従業員及びその他防火管理業務に従事する者は、危険物及びガスの漏えいを確認した場合は、その都度、統括防火管理者に報告するとともに、適切な処置を行う。</p>
被害状況の把握	防火管理者は、消防用設備等の被害状況を把握し、異常があった場合は、統括防火管理者に報告する。
復旧作業等の実施	<p>① 統括防火管理者は、復旧作業員に対し、消火器具の準備、避難経路の確認を行わせた後、復旧作業を行わせる。</p> <p>② 統括防火管理者は、建物の使用を再開するときは、安全管理体制を確立するとともに、再開の時期等を各事業所に周知する。</p>

第 1 1 その他の災害対策

1 大規模テロ等に伴う災害に係る自衛消防対策

項 目	内 容
事前の備え	マスク、防護衣等の避難誘導のための資器材を配置した場合、定期に点検・整備を行う。
自衛消防隊の活動の原則	<ul style="list-style-type: none">① 通報連絡、在館者の避難及び避難のために必要な最小限の身体防護措置を行う。② 行政機関からの指示等に従うことを原則とする。③ 自己事業所で発生した場合を除き、原則として屋内にとどまり行政機関からの指示を待つ。④ 統括防火管理者は、行政機関からの警報の発令等の情報を確実に収集できる体制をとり、在館者に確実に伝達する。⑤ 大規模テロ等に伴う災害と疑われる事案が発生した事業所は、速やかに統括防火管理者に連絡し、各事業所はそれぞれの消防計画に定める活動を行う。
避難誘導	<p>行政機関から避難の指示がなされた場合、統括防火管理者は、パニック防止に配慮しながら、事業所の消防計画に定める避難誘導班と連携して在館者を指定された場所まで避難させる。</p> <p>この場合、逃げ遅れる者がいないように、各防火管理者に適宜、人員確認を行わせる。</p>

2 大雨・強風等に係る自衛消防対策

項目	内容
事前の備え	<ul style="list-style-type: none"> ① 統括防火管理者は、大雨・強風等に備えて、建物内外の情報収集、水防用資器材の配置などの措置を講じる。 ② 排水溝等の雨水排水施設を清掃、整備する。 ③ 落下危険のある付属物の除去、固定措置を図る。 ④ 停電時等に正しい情報が入手できるようラジオ等を備えておく。 ⑤ 止水板、土のう、排水ポンプ等の水災害に対応する資器材を定期的に整備、点検する。 ⑥ 自主点検、検査にあわせて大雨・強風等による被害を未然に防止するために行う措置は、各事業所の消防計画に定める。
自衛消防隊の活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 大雨洪水警報の発令、急激な豪雨など、被害発生危険が高まった場合、統括防火管理者は、各防火管理者に対して、事業所の消防計画に定める措置を行わせる。 ② 統括防火管理者は、建物内外を定期的に巡回し、屋外に通じる窓や扉の閉鎖状況等を確認する。 ③ 道路の冠水等、地下部分への浸水危険がある場合は、事業所と協力し、次の措置を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・資器材の点検、排水ポンプの作動確認 ・地下部分への立入制限 ・エレベーターの使用制限

3 受傷事故等の自衛消防対策

項目	内容
事前の備え	<ul style="list-style-type: none"> ① 統括防火管理者は、自衛消防隊員の応急救護能力の向上を図るため、各事業所の応急救護に係る資格保有者の状況を把握し、各管理権原者と事前に協議して、従業員の救命講習の受講等の促進を図る。 ② 各管理権原者は、応急救護資器材を配置し、定期的に点検・整備を行う。
事故発生時の連絡体制	<p>統括防火管理者は、受傷事故等が発生した場合の連絡先を事前に定め、各防火管理者に周知徹底を図る。</p>
自衛消防隊の活動	<ul style="list-style-type: none"> ① 各事業所の消防計画に定めるところにより初期対応を行い、統括防火管理者に状況を報告し、必要な応援を仰ぐ。 ② 傷病者のそばにいる者は、応急手当を行い、状況により病院へ搬送又は救急車の要請（119番通報）を行う。 ③ 応急救護の知識・技術を持った者がいる場合は、応援要請を行う。 ④ 玄関等から救急隊を、現場へ誘導する。 ⑤ 救急隊到着後は、救急隊員の指示に従う。

▲ 4 ガス漏えい時の自衛消防対策

- (1) ガス漏れ火災警報設備によりガスの漏えいを知り得た者は、直ちに統括防火管理者及び防火管理者に報告し、防火対象物内の従業員及びその他防火管理業務に従事する者が相互に協力して、ガス爆発及び中毒による災害等の発生を防止する。
- (2) ガス漏えい事故防止の対策及び出火防止対策は、当該ガスを消費する事業所の防火管理者が事業所の消防計画に定める。

5 停電時の自衛消防対策

- (1) 自衛消防隊長は、停電復旧後の出火防止のため、電熱機器等の電源スイッチを切りコンセントを外すように防火対象物内の関係者に指示する。
- (2) 統括防火管理者は、消防用設備等及びその他防災設備が停止した場合は代替措置を実施する。
- (3) 停電復旧後は、統括防火管理者は消防用設備等及びその他防災設備の機能が正常に復旧していることを確認する。

第 12 雑則

経費の分担

本計画に基づき、経費を必要とする事業を行うときは、その都度協議し、経費の分担を決定するものとする。

別記

防火対象物の管理権原者の権原の範囲

所有者 (法人の場合は名称及び代表者氏名)		所有部分		権原の範囲	
番号	管理権原者 名称 (店舗名)	権原の範囲	番号	管理権原者 名称 (店舗名)	権原の範囲
平 面 図					
階層			階層		

▲別表 1 (全体についての防火管理業務の一部を第三者へ委託している場合)

全体についての防火管理業務の一部委託状況表

年 月 日現在

再受託者の有無		□無 □一部有 □全部		
全体についての防火管理業務の一部受託者の氏名及び住所等 〔法人にあっては名称及び主たる事務所の所在地〕			受託者が再委託する場合 再受託者の氏名及び住所等	
氏名 (名称) 住所 (所在地) 担当事務所 (電話番号) 所在地 電話番号 〔教育担当者氏名〕 〔講習等種別・番号〕 〔教育計画〕				
受託者の行う全体についての防火管理業務の 範囲及び方法については下記のとおり			再受託者の防火管理業務の範囲・方 法については下記のとおり	
常駐方法	範囲	□避難又は防火上必要な構造及び設備の維持管理 □消防・防災設備等の監視・操作業務		□同左 □同左
		□火災、地震その他の災害等が発生した場合の自衛消防活動		□同左
		□火災 □地震 □その他()		□同左 □同左 □同左
		□初期消火 □避難誘導 □通報連絡 □その他()		□同左 □同左 □同左 □同左
	□消火・通報・避難訓練の実施 □その他()		□同左 □その他()	
方法	常駐場所			
	常駐人員			
	委託する防火対象物の区域			
	委託する時間帯			
巡回方式	範囲	□避難又は防火上必要な構造及び設備の維持管理 □消防・防災設備等の監視・操作業務		□同左 □同左
		□火災、地震その他の災害等が発生した場合の自衛消防活動		□同左
		□火災 □地震 □その他()		□同左 □同左 □同左
		□初期消火 □避難誘導 □通報連絡 □その他()		□同左 □同左 □同左 □同左
	□消火・通報・避難訓練の実施 □その他()		□同左 □その他()	
方法	巡回回数			
	巡回人員			
	委託する防火対象物の区域			
	委託する時間帯			
遠隔移報方式	範囲	□消防・防災設備等の遠隔監視・操作業務		□同左
		□火災、地震その他の災害等が発生した場合の自衛消防活動		□同左
		□火災 □地震 □その他()		□同左 □同左 □同左
		□初期消火 □避難誘導 □通報連絡 □その他()		□同左 □同左 □同左 □同左
	□その他()		□その他()	
方法	現場確認要員の待機場所			
	到着所要時間			
	委託する防火対象物の区域			
	委託する時間帯			

(備考) 「受託者の行う全体についての防火管理業務の範囲」については、該当する項目の□に✓印を付する。

▲別表2 (全体についての防火管理業務の一部を第三者へ委託している場合)

全体についての防火管理業務一部委託契約書等の内容チェック表

作成する内容		チェック欄
1	名称・所在	
2	委託業務範囲等	
	(1) 範囲(全部、階数、一部等)	
	(2) 業務(一括、防災センター監視、警備、設備、清掃、駐車場等)	
	(3) 契約期間	
	(4) 受託者に防火管理上の権限を付与すること。	
3	受託者の厳守事項	
	(1) 契約内容を遵守すること。	
	(2) 消防法令に基づく管理権原者又は防火管理者の指揮、命令に従うこと。	
	(3) 消防計画に基づき業務を行うこと。	
	(4) 消防関係法令並びに館内規則を遵守すること。	
	(5) 勤務日報の記録及び報告をすること。	
4	勤務体制等	
	(1) 方法(常駐、巡回、遠隔移報等)	
	(2) 常駐場所(防災センター、管理室、待機場所等)	
	(3) 時間、人数、巡回回数、到着所要時間	
	(4) 休日、夜間の体制	
	(5) 消防用設備等の取扱いマニュアルの設置	
	(6) 資格保有者数(自衛消防技術認定証、防災センター要員講習等)	
5	受託会社の行う派遣従業員への防火・防災教育、訓練の実施体制	
	(1) 教育担当者の配置	
	(2) 教育担当者による計画的な防火・防災教育、訓練実施状況(教育計画等)	
6	出火防止業務	
	(1) 火気使用箇所の点検等監視業務	
	ア 喫煙禁止場所における違反者に対する是正措置	
	イ 火気設備・器具等の点検及びガスの閉鎖状況確認	
	ウ 吸殻処理状況の確認	
	(2) 周囲の可燃物の管理等	
	ア 放火防止対策(建物外周や共用部分に放置された可燃物の処理)	
	イ リネン室、倉庫、ゴミ置場等の施錠	
7	避難又は防火・防災上必要な構造及び設備等の維持管理	
	(1) 避難施設(避難口、廊下、階段及び通路)における避難障害の有無	
	(2) 防火戸・防火シャッター閉鎖障害の有無並びに閉鎖状況	
	(3) 消防用設備等の管理、保全状況の目視点検、確認	
	(4) その他防災設備等の異常・故障表示の対応(防災設備不動作表示を含む。)	
	(5) 建物構造等の破損又は危険箇所の有無	
8	火災、地震その他の災害等が発生した場合の自衛消防活動	
	(1) 自衛消防隊の編成に基づく初動措置	
	(2) 火災の発見(人的、煙感知器、設備の起動表示等による発見)	
	(3) 火災状況の把握(受信機の表示、非常電話等による情報収集)	
	(4) 消防機関への通報(電話・火災通報装置等による通報)	
	(5) 避難誘導(非常放送の活用、避難方向の指示、エレベーター使用禁止)	
	(6) 初期消火(消火器、屋内消火栓等の活用)	
	(7) 空調設備の停止(給排気設備の停止)、エレベーターの呼び戻し(避難階への呼び戻しと停止)、排煙設備の起動(排煙設備の起動順位の設定)、非常口等の解錠(非常口扉の解錠)、防火戸閉鎖等(防火戸、防火ダンパー等の遠隔操作及び手動操作)	
	(8) 消火設備の起動(各種消火設備の遠隔起動操作及び手動操作)	
	(9) 火災以外の地震その他の災害等の発生時の措置(□地震、□その他の災害等())	
	(10) 警戒宣言が発せられた場合の措置	
9	自衛消防訓練の実施	
	(1) 消防計画に基づく自衛消防訓練の実施	
	(2) 自衛消防訓練指導者	
10	その他	
	(1) 定期的な建物内外の巡回	
	(2) その他防火管理上必要な事項	
11	再委託をする場合の契約内容等の確認	

※ 契約書等の中に受託者に行わせる一部委託内容が盛り込まれているかどうか、該当する項目をチェックする。

別表 3

自主検査チェック表「建物」

実施項目及び確認箇所		検査結果		
建 物 構 造	(1) 基礎部 上部の構造体に影響を及ぼすような沈下・傾き・ひび割れ・欠陥等がないか。			
	(2) 柱・はり・壁・床 コンクリートに欠損・ひび割れ・脱落・風化等はないか。			
	(3) 天井 仕上材に、はく落・落下のおそれのあるたるみ・ひび割れ等がないか。			
	(4) 窓枠・サッシ・ガラス 窓枠・サッシ等には、ガラス等の落下、又は枠自体のはずれのおそれのある腐食、ゆるみ、著しい変形等がないか。			
	(5) 外壁（貼石・タイル・モルタル・塗壁等）・ひさし・パラペット 貼石・タイル・モルタル等の仕上材に、はく落・落下のおそれのあるひび割れ・浮き上り等が生じていないか。			
	(6) 屋外階段 各構成部材及びその結合部に、ゆるみ・ひび割れ・腐食・劣化等はないか。			
	(7) 手すり 支柱が破損・腐食していないか。また、取り付け部にゆるみ・浮きがないか。			
防 火 上 の 構 造	(1) 外壁の構造等 外壁の耐火構造等に損傷はないか。			
	(2) 防火区画等 ① 防火区画等の壁、天井等に破損がないか。 ② 自動開閉装置（ドアチェック等）付の防火戸・防火シャッターが完全に閉まるか。 〔確認要領〕 ○ 常時閉鎖式は最大限まで開放して閉まるのを確認する。 ○ 煙感知器連動閉鎖式は、防火戸を止めているマグネット等を手動により外し自動的に閉鎖するのを確認する。 ③ 防火シャッターの降下スイッチを作動させ、防火シャッターが最後まで降下するか。 ④ 防火戸・防火シャッターが閉鎖した状態で、隙間が生じていないか。 ⑤ 防火区画の防火設備に近接して、延焼の媒介となる可燃性物件を置いてないか。 ⑥ 防火ダンパーの作動状況は良いか。			
避 難 施 設 等	(1) 廊下・避難通路 ① 有効幅員が確保されているか。 ② 火災の予防又は避難に支障となる施設又は物件はないか。 ③ 床面は、避難に際し、つまづき、すべり等が生じてないか。			
		(2) 階段 ① 手すりの取り付け部の緩みと手すり部分の破損がないか。 ② 階段に敷物の類は敷かれていないか。（面積が2㎡以下のもの、防災性能を有するものを除く。） ③ 火災の予防又は避難に支障となる施設又は物件はないか。 ④ 非常用照明がバッテリーで点灯するか。		
			(3) 避難口・主たる通路に設ける戸 ① 次の出入口に設ける戸は、容易に開放できる外開き戸であるか。（劇場等以外で支障のないものは内開き可能） ア 屋内から直接地上に通ずる出入口及びその附室出入口 イ 避難階又は地上に通ずる直通階段及び附室の出入口 ウ 非常の際避難専用とするために設けた出入口 ② ①の戸を開放した場合に廊下、階段等の幅を有効に確保できているか。 ③ ①の戸を開閉に支障となる障害物がないか。	
	(4) 消防隊非常用進入口は表示されているか。また、進入障害はないか。			
	火 気 設 備 ・ 器 具	(1) 厨房設備（コンロ、レンジ、フライヤー等）、給湯器等 ① 可燃物品から適正な距離が保たれているか。また、周辺部は炭化していないか。 ② ガス配管等は、亀裂、劣化、損傷していないか。 ③ 油脂を含む蒸気を発生させる厨房設備の天蓋、グリスフィルター、防火ダンパー及び排気ダクトは、清掃されているか。 ④ 防火ダンパーに変形、損傷がなく、かつ、正常に作動するか。 ⑤ 煙突、排気筒及び排気ダクトに変形、損傷がないか。また、可燃物品から適正な距離が保たれているか。		
(2) 暖房器具（ガスストーブ、石油ストーブ等） ① 自動停止装置は、適正に機能するか。				

		② 火気周囲は、整理整頓されているか。			
電気設備・器具	(1)	変電設備			
		① 電気技術主任者等の資格を有する者が検査を行っているか。			
② 変電設備の周囲に可燃物を置いていないか。					
	(2)	電気器具			
		① タコ足の接続を行っていないか。			
		② 許容電流の範囲内で電気器具を適正に使用しているか。			
危険物施設	(1)	少量危険物貯蔵取扱所			
		① 標識は掲げられているか。			
		② 掲示板（類別・数量等）には、正しく記載されているか。			
		③ 換気設備は適正に機能しているか。			
		④ 容器の転倒、落下防止措置はあるか。			
		⑤ 整理清掃状況は適正か。			
		⑥ 危険物の漏れ、あふれ、飛散はないか。			
(2)	指定可燃物貯蔵取扱所				
	① 標識は掲げられているか。				
	② 貯蔵取扱所周辺に火気はないか。				
		③ 整理整頓（集積）の状況は良いか。			
備考					
検査実施者氏名		検査実施日	検査実施者氏名	検査実施日	統括防火管理者 確認

(備考) 不備・欠陥がある場合には、直ちに防火管理者に報告する。

実施しない設備、確認箇所は斜線とする。

(検査結果の凡例) ○…良 ×…不備・欠陥 ☒…即時改

別表 4

自主点検チェック表「消防用設備等」

実 施 設 備	確 認 箇 所	点検結果
消 火 器 (年 月 日実施)	(1) 設置場所に置いてあるか。	
	(2) 消火薬剤の漏れ、変形、損傷、腐食等がないか。	
	(3) 安全栓が外れていないか。安全栓の封が脱落していないか。	
	(4) ホースに変形、損傷、劣化等がなく、内部に詰まりがないか。	
	(5) 圧力計が指示範囲内にあるか。	
屋内消火栓設備 泡消火設備 (移動式) (年 月 日実施)	(1) 使用上の障害となる物品はないか。	
	(2) 消火栓扉は確実に開閉できるか。	
	(3) ホース、ノズルが接続され、変形、損傷はないか。	
	(4) 表示灯は点灯しているか。	
スプリンクラー設備 (年 月 日実施)	(1) 散水の障害はないか。(例. 物品の集積など)	
	(2) 間仕切り、棚等の新設による未警戒部分はないか。	
	(3) 送水口の変形及び操作障害はないか。	
	(4) スプリンクラーのヘッドに漏れ、変形はないか。	
	(5) 制御弁は閉鎖されていないか。	
水噴霧消火設備 (年 月 日実施)	(1) 散水の障害はないか。(例. 物品の集積など)	
	(2) 間仕切り、棚等の新設による未警戒部分はないか。	
	(3) 管、管継手に漏れ、変形はないか。	
泡消火設備 (固定式) (年 月 日実施)	(1) 泡の分布を妨げるものがないか。	
	(2) 間仕切り、棚等の新設による未警戒部分はないか。	
	(3) 泡のヘッドに詰まり、変形はないか。	
不活性ガス消火設備 ハロゲン化物消火設備 粉末消火設備 (年 月 日実施)	(1) 起動装置又はその直近に防護区画の名称、取扱方法、保安上の注意事項等が明確に表示されているか。(手動式起動装置)	
	(2) 手動式起動装置の直近の見やすい箇所に「不活性ガス消火設備」「ハロゲン化物消火設備」「粉末消火設備」の表示が設けてあるか。	
	(3) スピーカー及びヘッドに変形、損傷、つぶれなどはないか。	
	(4) 貯蔵容器の設置場所に標識が設けてあるか。	
屋外消火栓設備 (年 月 日実施)	(1) 使用上の障害となる物品はないか。	
	(2) 消火栓扉の表面には、「消火栓」又は「ホース格納庫」と表示されているか。	
	(3) ホース、ノズルに変形、損傷はないか。	
動力消防ポンプ設備 (年 月 日実施)	(1) 常置場所の周囲に、使用の障害となるような物がないか。	
	(2) 車台、ボディー等に割れ、曲がり及びボルトの緩みがないか。	
	(3) 管そう、ノズル、ストレーナー等に変形、損傷がないか。	
自動火災報知設備 (年 月 日実施)	(1) 表示灯は点灯しているか。	
	(2) 受信機のスイッチは、ベル停止となっていないか。	
	(3) 用途変更、間仕切り変更による未警戒部分がないか。	
	(4) 感知器の破損、変形、脱落はないか。	
ガス漏れ火災警報設備 (年 月 日実施)	(1) 表示灯は点灯しているか。	
	(2) 受信機のスイッチは、ベル停止となっていないか。	
	(3) 用途変更、間仕切り変更、ガス燃焼機器の設置場所の変更等による未警戒部分がないか。	
	(4) ガス漏れ検知器に変形、損傷、腐食がないか。	
漏電火災警報器 (年 月 日実施)	(1) 電源表示灯は点灯しているか。	
	(2) 受信機の外形に変形、損傷、腐食等がなく、ほこり、錆等で固着していないか。	
非 常 ベ ル (年 月 日実施)	(1) 表示灯は点灯しているか。	
	(2) 操作上障害となる物がないか。	
	(3) 押しボタンの保護板に破損、変形、損傷、脱落等がないか。	

放送設備 (年 月 日実施)	(1) 電源監視用の電源電圧計の指示が適正か。電源監視用の表示灯が正常に点灯しているか。	
	(2) 試験的に放送設備により、放送ができるか確認する。	
避難器具 (年 月 日実施)	(1) 避難に際し、容易に接近できるか。	
	(2) 格納場所の付近に物品等が置かれ、避難器具の所在が分かりにくくなっていないか。	
	(3) 開口部付近に書棚、展示台等が置かれ、開口部をふさいでいないか。	
	(4) 降下する際に障害となるものがなく、必要な広さが確保されているか。	
	(5) 標識に変形、脱落、汚損がないか。	
誘導灯 (年 月 日実施)	(1) 改装等により、設置位置が不適正になっていないか。	
	(2) 誘導灯の周囲には、間仕切り、衝立、ロッカー等があって、視認障害となっていないか。	
	(3) 外箱及び表示面は、変形、損傷、脱落、汚損等がなく、かつ適正な取り付け状態であるか。	
	(4) 不点灯、ちらつき等がないか。	
消防用水 (年 月 日実施)	(1) 周囲に樹木等使用上の障害となる物がないか。	
	(2) 道路から吸管投入口又は採水口までの消防自動車の進入通路が確保されているか。	
	(3) 地下式の防火水槽、池等は、水量が著しく減少していないか。	
連結散水設備 (年 月 日実施)	(1) 送水口の周囲は、消防自動車の接近に支障がないか、また送水活動に障害となる物がないか。	
	(2) 送水口に変形、損傷、著しい腐食等がないか。	
	(3) 散水ヘッドの各部に変形、損傷等がないか。	
	(4) 散水ヘッドの周囲には、散水を妨げる広告物、棚等の障害物がないか。	
連結送水管 (年 月 日実施)	(1) 送水口の周囲は、消防自動車の接近に支障がないか、また送水活動に障害となる物がないか。	
	(2) 送水口に変形、損傷、著しい腐食等がないか。	
	(3) 放水口の周囲には、ホースの接続や延長等の使用上の障害となる物がないか。	
	(4) 放水口を格納する箱は変形、損傷、腐食等がなく、扉の開閉に異常がないか。	
	(5) 表示灯は点灯しているか。	
非常コンセント設備 (年 月 日実施)	(1) 周囲に使用上障害となる物がないか。	
	(2) 保護箱は変形、損傷、腐食等がなく、容易に扉の開閉ができるか。	
	(3) 表示灯は点灯しているか。	
備考		
検査実施者氏名		統括防火管理者 確認

(備考) 不備・欠陥がある場合には、直ちに統括防火管理者に報告する。
実施しない設備、確認箇所は斜線とする。

(点検結果の凡例) ○…良 ×…不備・欠陥 ☒…即時改修

別表 5

一斉帰宅抑制における従業員等のための備蓄

備蓄場所	備蓄品 (1人分/日の備蓄量)	___人/3日分の備蓄量	
階	食料品	アルファ化米(3食分)	
		乾パン(1缶)	
		缶詰(3缶)	
	飲料水	ミネラルウォーター(3リットル)	
	救急医療薬品類	消毒液	
		ばんそうこう	
		風邪薬	
	要配慮者用	簡易ベッド	
		簡易間仕切り壁	
		乳幼児用食品	
		粉ミルク	
		哺乳器	
	その他の物資	車いす	
		毛布・保温シート等(1枚/人)	
		簡易トイレ	
		敷物・ブルーシート等	
		携帯ラジオ	
		懐中電灯	
		乾電池(単1から単4)	
		使い捨てカイロ(3個)	
ウエットティッシュ			
非常用発電機			
工具類			
ヘルメット			
軍手			
地図(1都3県)			
拡声器			
備蓄場所	備蓄品 (1人分/日の備蓄量)	___人/3日分の備蓄量	
階	食料品	アルファ化米(3食分)	
		乾パン(1缶)	
		缶詰(3缶)	
	飲料水	ミネラルウォーター(3リットル)	
	救急医療薬品類	消毒液	
		ばんそうこう	
		風邪薬	
	要配慮者用	簡易ベッド	
		簡易間仕切り壁	
		乳幼児用食品	
		粉ミルク	
		哺乳器	
	その他の物資	車いす	
		毛布・保温シート等(1枚/人)	
		簡易トイレ	
		敷物・ブルーシート等	
		携帯ラジオ	
		懐中電灯	
		乾電池(単1から単4)	
		使い捨てカイロ(3個)	
ウエットティッシュ			
非常用発電機			
工具類			
ヘルメット			
軍手			
地図(1都3県)			
拡声器			

別表 6

施設の安全点検のためのチェックリスト

点検項目		点検内容	判定 (該当)	該当する場合の 対処・応急対応等
施設全体				
1	建物（傾斜・沈下）	傾いている。沈下している。		建物を退去
		傾いているように感じる。		要注意 →専門家へ詳細診断を要請
2	建物（倒壊危険性）	大きなX字状のひび割れが多数あり、コンクリートの剥落も著しく、鉄筋がかなり露出している。壁の向こう側が透けて見える。		建物を退去
		斜めやX字形のひび割れがあるが、コンクリートの剥落はわずかである。		要注意 →専門家へ詳細診断を要請
3	隣接建築物・周辺地盤	隣接建築物や鉄塔等が施設の方向に傾いている。		建物を退去
		周辺地盤が大きく陥没または隆起している。 隣接建築物の損傷や周辺地盤の地割れがあるが、施設への影響はないと考えられる。		建物を退去 要注意 →専門家へ詳細診断を要請
施設内部（居室・通路等）				
1	床	傾いている、または陥没している。		立入禁止
		フロア等、床材に損傷が見られる。		要注意/要修理
2	壁・天井材	間仕切り壁に損傷が見られる。		要注意/要修理
		天井材が落下している。 天井材のズレが見られる。		立入禁止 要注意 →専門家へ詳細診断を要請
3	廊下・階段	大きなX字状のひび割れが多数あり、コンクリートの剥落も著しく、鉄筋がかなり露出している。壁の向こう側が透けて見える。		立入禁止
		斜めやX字形のひび割れがあるが、コンクリートの剥落はわずかである。		点検継続 →専門家へ詳細診断を要請
4	ドア	ドアが外れている、または変形している。		要注意/要修理
5	窓枠・窓ガラス	窓枠が外れている、または変形している。 窓が割れている、またはひびがある。		要注意/要修理 要注意/要修理
6	照明器具・吊り器具	照明器具・吊り器具が落下している。		要注意/要修理
7	オフィス家具類	照明器具・吊り器具のズレが見られる。		要注意/要修理
		オフィス家具類が転倒している。 書類等が散乱している。		要注意/要修理/要固定 要注意/要復旧
設備等				
1	電力	外部からの電力供給が停止している。（商用電源の途絶）		代替手段の確保/要復旧 →(例)非常用電源を稼働
		照明が消えている。		
		空調が停止している。		
2	エレベーター	停止している。		要復旧 →メンテナンス業者に連絡 →メンテナンス業者または消防機関に連絡
		警報ランプ、ブザー点灯、鳴動している。		
		カゴ内に人が閉じ込められている。		
3	上水道	停止している。		代替手段の確保/要復旧 →(例)備蓄品の利用
4	下水道・トイレ	水が流れない（溢れている）。		使用中止/代替手段の確保/要復旧 →(例)災害用トイレの利用
5	ガス	異臭、異音、煙が発生している。		立入禁止/要復旧
		停止している。		要復旧
6	通信・電話	停止している。		代替手段の確保/要復旧 →(例)衛星携帯電話、無線機の利用
7	消防用設備等	故障・損傷している。		代替手段の確保/要復旧 →消防設備業者に連絡
セキュリティ				
1	防火シャッター	閉鎖している。		要復旧
2	非常階段・非常用出口	閉鎖している（通行不可である）。		要復旧 →復旧できない場合、立入禁止
3	入退室・施錠管理	セキュリティが機能していない。		要復旧/要警備員配置 →外部者侵入に要注意（状況により立入禁止）

火災時の自衛消防活動要領

(通報連絡、情報収集)

【共通】

- 1 火災の発見者は、消防機関（119 番）への通報及び警備室、管理人室等に場所、状況等を速報するとともに、周辺に火災を知らせる。
- 2 自動火災報知設備の発信機を押し、大声で叫ぶ等周囲に火災の発生を知らせると同時に、警備室、管理人室等に火災の場所、状況等を速報する。
- 3 すでに消火された火災を発見した場合も、消防機関（119 番）へ通報する。
- 4 管理権原者、防火管理者が不在のときは緊急連絡一覧表により、管理権原者、防火管理者へ連絡する。

【本部隊】

- 5 本部隊の通報連絡（情報）班は、次の活動を行う。
 - (1) 本部隊員として活動拠点における任務
 - (2) 現場確認者等から火災の連絡を受けた時の速やかな 119 番通報
 - (3) 火災確認後、速やかに、避難が必要な階の在館者への避難誘導放送
 - (4) 自衛消防隊長、地区隊長及び関係者への火災発生連絡
 - (5) 避難が必要な階以外の階への火災発生及び延焼状況の伝達

【地区隊】

- 6 地区隊の通報連絡（情報）班は、次の活動を行う。
 - (1) 出火場所、火災規模、燃えているもの、延焼危険の確認
 - (2) 消火活動状況、活動人員の確認
 - (3) 逃げ遅れた者、負傷者の有無及び状況の確認
 - (4) 区画形成状況の確認
 - (5) 危険物等の有無の確認
 - (6) 前(1)～(5)の情報の自衛消防隊長又は地区隊長への伝達
 - (7) 情報収集内容の記録

(消火活動)

【共通】

- 1 初期消火班は、出火場所に急行し、自己の安全を確保した上で初期消火活動を行う。
- 2 初期消火班は、消火器や屋内消火栓などの消防用設備等を用いて消火する。

【本部隊】

- 3 本部隊の初期消火班員は、地区隊と協力し、消火器又は屋内消火栓設備等を活用して適切な初期消火を行うとともに防火戸、防火シャッター等を閉鎖し、火災の拡大防止にあたる。

【地区隊】

- 4 地区隊の消火活動は、初動措置に主眼をおき活動する。

なお、自己地区隊の担当区域外で発生した場合は、臨機の措置を行うとともに、自衛消防隊長等の指示により行動する。

(避難誘導)

【共通】

- 1 本部隊の避難誘導班員は、火災が発生した場合、地区隊と協力して出火階及びその直上階の者を優先して避難誘導に当たる。
- 2 避難誘導班は、避難経路図に基づいて、避難誘導する。
- 3 エレベーターによる避難は原則として行わない。
- 4 屋上への避難は原則として行わない。
- 5 避難誘導班員の配置は、非常口、特別避難階段附室前及び行き止まり通路等とする。
また、忘れ物等のため再び入る者のないように万全を期する。
- 6 避難誘導は、携帯拡声器、懐中電灯、警笛、ロープ等を活用して避難者に避難方向や火災の状況を知らせ、混乱の防止に留意し避難させる。
- 7 負傷者及び逃げ遅れた者等の情報を得たときは、直ちに本部に連絡する。
- 8 避難終了後、速やかに人員点呼を行い、逃げ遅れ者の有無を確認し、自衛消防隊の本部に報告する。

(安全防護措置)

【共通】

安全防護班員は、火災が発生した場合、排煙口の操作を行うとともに逃げ遅れた者がいないことを確認した後、防火戸、防火シャッター、防火ダンパー等の閉鎖を行う。

また、スプリンクラー設備作動後の制御弁の閉鎖等の水損防止作業や、その他施設に対する必要な措置を行う。

(応急救護)

【共通】

- 1 本部隊は、必要に応じ _____ に救護所を設置し、地区隊の応急救護班と連携して活動を行う。
- 2 地区隊の応急救護班は、消防隊の活動に支障のない安全な場所に救護所を設置する。ただし、本部隊の応急救護班が救護所を設けた場合は、本救護所を活用し、本部隊と連携して必要な活動を行う。
- 3 応急手当を行い、救急隊と密接な連絡をとり、速やかに負傷者を病院に搬送できるように適切な対応をとる。
- 4 負傷者の所属する事業所名、氏名、年齢、住所、電話番号、搬送病院、負傷箇所及び負傷程度等必要な事項を記録する。
- 5 逃げ遅れた者の情報を得た場合、現場へ急行し、特別避難階段、屋外避難階段等の安全な場所へ救出する。
- 6 負傷者の発生がなく、救護所設置の必要もない場合には、避難誘導班と協力し、逃げ遅れた者の有無の確認に当たる。

(その他)

↓自動火災報知設備と音声警報鳴動方式の放送設備が連動している場合

▲【本部隊】

- 1 自動火災報知設備の受信機に火災表示を認めた時は、1名以上の自衛消防隊員（本部隊の通

報連絡班)を警備室、管理人室等に残し、他の者(本部隊の初期消火班、避難誘導班、安全防護班等)は消火器、マスターキー、携帯電話等を持って現場へ急行する。

- 2 現場へ急行した自衛消防隊員は、自動火災報知設備の発信機を押すか又は非常電話等により警備室、管理人室等へ連絡する。
- 3 警備室、管理人室等に残った自衛消防隊員(本部隊の通報連絡班)は、現場から火災である旨の連絡があった場合は、直ちに消防機関(119番)へ通報する。また、火災の状況によっては必要により放送設備を手動に切替え必要な事項を放送する。
- 4 在館者(劇場等の観客、百貨店の顧客等)の混乱を防ぐため、従業員のみに分かる暗号文を放送する場合には感知器が発報した旨の放送の後に、放送設備を手動により起動させ暗号文を放送する。

↓自動火災報知設備等と連動した通報(事業所火災直接通報を含む。)を行っている場合

▲【本部隊】

- 1 自動火災報知設備が作動し、火災通報装置から消防機関へ通報された場合には、通報連絡班は消防機関からの着信信号を確認する。
- 2 誤作動により直接通報された場合は、非常停止ボタンを押し、通報を中止する。ただし、通報の中止が間に合わなかった場合は、電話からの119番により、誤作動であることを消防機関へ連絡する。

震災時の自衛消防活動要領

(消防機関への通報)

【共通】

- 1 消防機関への通報は、努めて防火対象物自衛消防隊本部隊が行う。ただし、火災が発生した場合又は防火対象物自衛消防隊へ連絡がとれないなど、緊急を要する場合は、事業所自衛消防隊の通報連絡班から通報し、通報後その旨を防火対象物自衛消防隊本部に通報する。
- 2 地震の被害状況により、電話回線が使用不能な場合は、近くの消防署へ駆けつけ、火災等の発生状況、救出、救護が必要な状況を通報する。

(初期救助、初期救護)

【共通】

- 1 応急救護班は負傷者が発生した場合、応急手当を行うとともに、地震の被害状況により緊急を要する場合は、救護所、医療機関に搬送する。
- 2 救助活動は、避難経路の安全を確保して実施する。
- 3 倒壊現場付近では、消火器や水バケツ等を準備し、不測の事態に備える。
- 4 救出の優先順位は、人命の危険が切迫している人から救出し、多数の要救助者がいる場合は、救出作業が容易な人を優先する。
- 5 チェーンソー等危険が伴う救出資器材は、努めて機器の取扱いに習熟した者が担当する。
- 6 救出した人に対しては、救出した時間、場所等を記入した傷病者カードを掲示する。

【本部隊】

- 7 建物等の下敷きになっている者等救出が必要な者を発見した場合は、自衛消防隊長に報告するとともに、救出可能な場合は、周囲の者と協力して救出を図る。
- 8 倒壊建物に挟まれたり、閉じ込められた人の救出にあたっては、状況を自衛消防隊長等に報告するとともに、救出作業及び要救助者の安全を確認しながら作業を行う。

(エレベーターの閉じ込めの対応等)

【共通】

- 1 エレベーターに閉じ込められた場合は、インターホンにより警備室、管理人室等に閉じ込められた旨を早急に連絡するとともに、けが人の有無等を伝える。

【本部隊】

- 2 エレベーターに閉じ込められた者を発見した者は、速やかに防火対象物自衛消防隊長等に報告し、エレベーター管理会社の緊急連絡先に連絡する。
- 3 速やかにエレベーターの位置を確認するとともに、インターホンにより内部に呼び掛けを行い、閉じ込められた者の有無を確認する。
- 4 閉じ込められた者に対し、エレベーター管理会社へ連絡した旨、地震の状況等を適宜連絡し、落ち着かせる。
- 5 防火対象物自衛消防隊長は、エレベーターが使用できない場合又は一部のエレベーターのみが動いている場合は、在館者に伝達するとともに、各階に掲示し、利用の自粛を図る。
- 6 研修の受講修了者等救出活動を行う技術・資格等を有する者がおり、エレベーター管理会社の到着が著しく遅れるなど緊急やむを得ない場合は、エレベーター管理会社の到着を待たずに、救出活動を行わせる。
- 7 エレベーター管理会社が到着した場合は、エレベーター停止位置等の情報を伝達し、現場まで誘導する。

